

堀越一志「人工知能が労働者にもたらす影響と展望」

人工知能(Artificial Intelligence; AI)は昨今マスコミでもよく取り上げられるトピックで、多くの企業が可能性を見出して開発にしのぎを削っています。

人工知能に関する話題は、人工知能を活用することによって人間の生活がより便利で快適になり、労働生産性も上がるだろうという期待と、他方では人工知能がもたらすかもしれない弊害に対する懸念との二つに大別されますが、どちらかと言えば前者のように明るい面に着目した言説が目立ちます。

この論文は後者であり、人工知能が将来的に人間の労働に取って代わり、失業が大幅に増加する恐れをテーマに据えています。重要な視点にもかかわらず、人工知能による雇用への影響に関する本格的な調査研究は、日本ではあまり見られません。

あえて人工知能の負の側面をテーマに選んだのは良かったと思います。ただ、このテーマは、現在起きている問題というよりは将来起きる恐れのある問題であり、少なからず予測を伴う議論にならざるを得ないという難しさがありました。

もう一つ、この論文では問題解決策の一環として、「ベーシック・インカム」や「クーポン型市場社会主義」を調べて取り上げています。これらの所得補償政策案は、人工知能の話題そのものから少し距離を置いて、技術革新がもたらす雇用・所得への影響をどう解消していくべきかを考察したものです。これらの政策はあくまでもアイデア・レベルに過ぎず、その実現可能性は低いのですが、興味深い考え方ではあります。

人工知能は確かに新しい話題ですが、技術革新がもたらす雇用・所得への影響は普遍的であり、古くは産業革命に遡ることができます。人工知能を巡る巷間の表層的な話題だけにとらわれず、こうした普遍性のあるテーマの存在に気づけたという点を高く評したいと思います。

ただし、実態調査の面では、タクシーの運転手 1 名に話を聞いただけでとどまったのが残念でした。